

【令和6年度】とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1171
施設名	富ヶ谷ちとせ保育園
施設所在地	東京都渋谷区富ヶ谷 1-3 1-3
法人名	社会福祉法人ちとせ交友会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

【食育】

子ども達の生活の中で身近な「食」をテーマに、日頃自身が食べている食材や料理ができるまでに意識を持てるよう「食育」について考える活動を実施した。

<テーマの設定理由>

日頃の保育の中でクッキングに興味のある子が多く、活動の中で食材に興味を持つ子の姿も見られていた。日頃の食事でテーブルに並ぶ料理ができるまでの“過程”に加え、料理に使う食材ができるまでの“過程”にも興味を持ってもらいたい。また実際に収穫などを体験する事で作る人がいることに気づきや興味を繋げていきたい。

2. 活動スケジュール

令和6年10月：戸外活動(芋ほり)

令和6年11月～令和7年2月：食育授業

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・実際に子ども達が食材を畑から収穫できるように会場の予約、また作り手の話を聞く時間の確保
- ・外部から魚屋さんを招き、目の前で魚を捌く様子の実演
- ・近隣のスーパーに実際に買い物に行き商品として売られている様子を見ながら購入体験をする

4. 探究活動の実践						
<活動の内容>						
<p>(1)芋ほり体験 サツマイモを育てている農園に行き、実際に子ども達が芋ほり体験を実施した。土に触れたことがない子の姿も見られ戸惑う様子もあったが慣れてくると蔓や葉っぱなど興味を持って観察したり触れたりする子が多かった。スーパー等の店舗で見かける物よりも大きかったことに驚き、畑に生えている様子を興奮気味に話す様子が見られた。農園の方に育て方や大きく育てる為のポイントなども丁寧に伺った。</p> <p>(2)魚の解体ショー 普段給食の魚を仕入れている魚屋さんを招き、キングサーモンの解体ショーを実施した。解体していく中で大きな骨や目玉など見慣れない物が多く興味を示している子が多かった。前回の芋ほりと同様に大きな魚の状態から見慣れた切り身の様子になり不思議そうにする子が多かった。ラップや袋を使って実際に触れたり、においを嗅いだり五感で感じられる活動を取り入れた。</p> <p>(3)近隣スーパーへの買い物に行きお店に並んでいる商品を実際に見られるようにした。また会話の中に畑や魚屋さんの解体ショーの内容を思い出すような会話を行った。</p>						
<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>						
<p>実際に見る、触れる、嗅ぐ、聞くなど五感を働かせながら参加できた活動が多く、興味を示す子が多かった。家庭での買い物の際や、給食や日々の食事の中で目にしていた食材が知っている状態と異なった様子を見て不思議そうにする子や他の物の状態が気になり意欲的に図鑑を見たりする姿が多く見られるようになった。</p> <p>また、自分たちで実際に収穫したり調理をしたりしたことで様々なものを口にしようとしたり、苦手な物への意識も変わってきたように感じる。子ども自身が興味を持って「〇〇を作る時は材料は何がいるの?」「〇〇は作れるかな?」など自分たちで興味を持って話す姿が見られいい経験になったと思う。</p>						
						
5. 振り返り						
<振り返りによって得た先生の気づき>						

今までの保育園での食育活動はクッキングがメインになることが多かった。今回の活動を導入した事で自分たちの生活や食事に対して子ども達の気持ちが向いたことが何よりも大きな発見だったと思う。また、その子ども達の姿を見て保育者側も子ども達からの興味関心に今まで以上に耳を傾けて「安全に留意しながら子ども達の興味を満たせる活動」の流れや援助を改めて考え保育に活かす姿が見られた。

また食材の収穫や解体ショーを通して保育者も子どもと一緒に土の感触や魚の体など普段なかなか経験できないことを共有できたことで今後の保育にも新しいアイデアを提示していってくれるのではないかと感じた。